

研修のテーマ

子どもが輝く指導のコツ・子どもが創るリコーダーアンサンブル

1 視察期間 平成30年8月6日(月) 7日(火)

2 視察場所 北とぴあカナリヤホール

3 研修報告

(1) 研修の概要

本校の伝統であるリコーダー活動について、魅力ある指導法を学び、これからの教育実践の改善をはかっていく。

(2) 研修から感じたこと

「子どもが輝く指導のコツ」

リコーダーの特長は、表現力...レベルの高くない子がやっても出来ること、そして 成長がわかる...「昨日できなかったことが今日はできた!」と実感できることにある。また、「やる気があるから出来る」のではなく、教師が1つ(1音)でも出来たらほめる 出来る(自尊感情が芽生える)から やる気が出てくるのである。子ども達はリコーダーを学ぶ前から、興味・関心・意欲はとても持っている。この意欲をどこまで持続させることができるのか...そのための指導のポイントを、リコーダーの導入場面、“静かにさせるより静かにしたくなる方法”、右手だけを使う簡単な曲でどうやっていい音を吹けるようにしていくか、サミングや低い音への導入法など、多岐に渡って教えていただき体験する中で、長岡むつみ講師が言わんとしていた「大切なことほど楽しく教えたい、楽しく導きたい」を実感することができた。

「子ども達が創るリコーダーアンサンブル」

研修の一番始めに、講師の長岡先生から「私は塔を立てます。誰もが上りたい美しい塔を。そしてやる気に火をつけるんです。」と言われた時は漠然と捉えていた。Sリコ、Aリコ、Tリコ、Bリコを使い合奏曲を練習しながら、子ども達と大切にしたい3つの基本『いい音』『タンギング』『ポルタート』を楽曲の中にちりばめ、「ここはどうやったら良いと思う?」と子ども達が考えたり創作したりする場面を設定すること、更に、「美しい響きを創る」根っことなる『技術』を習得し、それが子ども達のやる気に火をつけることを体感してみて、「誰もが上りたい美しい塔」が自分にも見えてきた感じがした。少しずつではあるけれど、やる度に良くなっていく実感とほめ言葉、さらに具体的なアドバイスも加わって、自分なりに「ここはもっとこうしよう」「息継ぎをどこで吸うといいのだろう?」と考え続け、聞き続けながらアンサンブルを楽しむ事が出来た。その楽曲から感じられる「美しさ」に加え、教師自身と子ども達自身が「美しい」と感じられる心が相まって「誰もが上りたい美しい塔」が見えてくるのではないかと感じた。

(3) 研修を通して 私のこれからの課題

「出来ないことが当たり前だと思っています」この言葉を聞いたとき、内心冷やっとした自分がいた。子ども達が自発的に練習するのが当たり前、リコーダーが好きなんだから努力をするのが当たり前...。いつの間にか、リコーダーが吹けるのは当たり前でしょ?と勘違いをし、子ども達の「できた!」をしっかりと受け止められなくなっていた。リコーダーアンサンブルの指導をどうすればいいの見通しや方法が持てずに

及び腰でいたが、今回の研修で学んだことや様々なネタをこれからの教育実践に生かしていきたい。